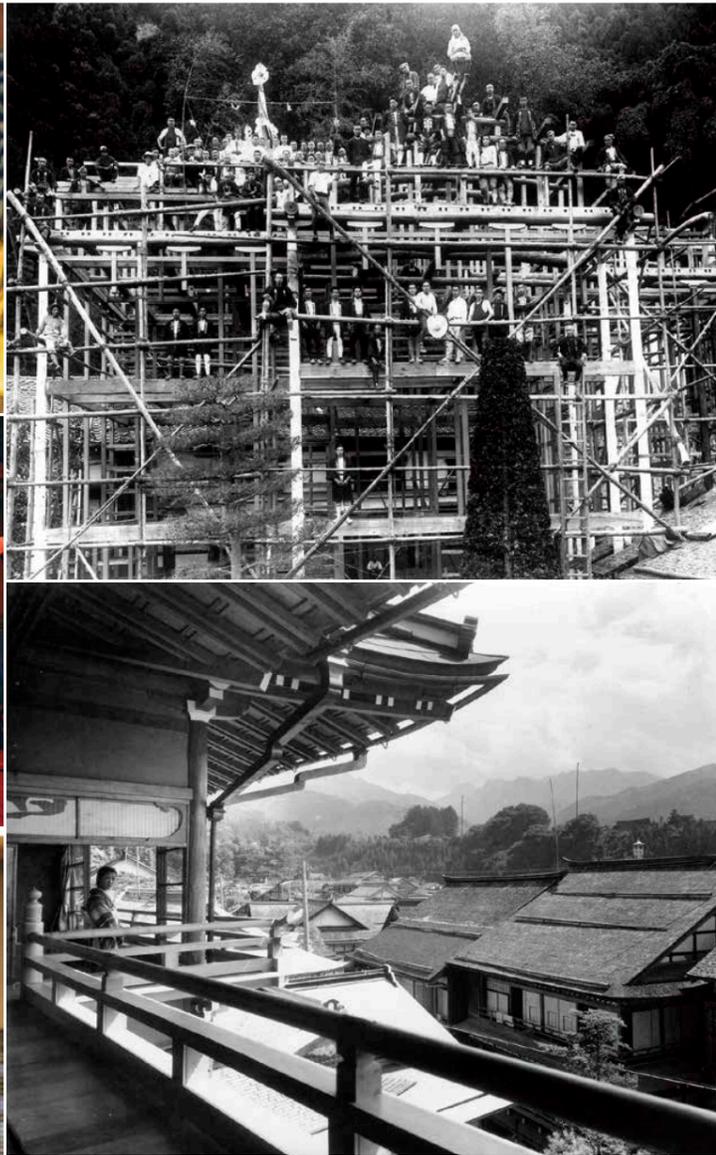




信州湯けむり紀行
〜渋温泉 金具屋〜



右：現在の斉月楼 中上：通し柱の存在感が際立つ斉月楼の上棟(昭和初期) 中下：斉月楼4階の客室と温泉街(昭和30年代) 左上・中：「音泉温泉」2017年の様子 左下：金具屋の歴史を語る9代目西山和樹さん

金具屋エンターテインメント

信州屈指の源泉数と湯量を誇る洪温泉は、上州草津と善光寺を結ぶ草津街道の宿場として、江戸時代以前から旅人や湯治客のにぎわいが絶えませんでした。風情漂う温泉街の路地に木造4階の建物が存在感を放つ「歴史の宿金具屋」は、当時から続く老舗湯宿。元は鍛冶屋だったことから「金具屋」を屋号としてきました。

金具屋は明治後期から昭和初期にかけ数度にわたって建築、改修を重ね、伝統的な姿を今に伝えていきます。ことに6代目が昭和11(1936)年に完成させた木造4階建の「斉月楼」と130畳の「大広間」は、ほぼ当時の姿のまま。現当主の長男で9代目の西山和樹さんが宿泊者に向けた「文化財巡り」のツアーを毎日開催し、建物の魅力や歴史を伝え続けています。

「長野電鉄湯田中駅が昭和2年に開業したのを受け、6代目は、それまでの湯治宿とはまったく違う「観光旅館」をつくらうと奮起。宮大工を伴って全国の名旅館を泊まり歩き、気に入った意匠や細工を描き写させました。それらを寄せ集めて設計し、最高級の素材を惜しみなく使ってつくりあげたのが、斉月楼、大広間、そして大浴場『鎌倉風呂』です」

6代目が費やしたのは、当時の金額で10万円※の大金と3年の歳月。伝統を感じさせる純和風の建物のなかに、強度を保つ西洋建築の技術を投入し、デザイン面では和の美や細工を随所に表現しつつ、格式よりもゆとり、遊び心を感じられる空間をつくりあげました。社寺建築、数寄屋造り、寝殿造り、書院造りなど、日本のさまざまな建築様式を、ルールにしばられずに「いいとこ取り」した造りによって、滞在客が非日常の時間を満喫できる旅館を目指したのです。

全国から団体で善光寺参りに訪れ、列車ではるばる泊まりにやってくる数百人の観光客を芸者衆が粋な芸でもてなす場として、大広間も連日にぎわいに包まれました。

歴史の趣が漂う館内をめぐるのと、ここから当時のさざめきが聞こえてきそうです。しかし、それらが失われる危機に直面した時期もあったのです。

高度成長期に日本人の価値観の変化に伴い、伝統ある木造建築のほとんどが地域から姿を消していきました。バブル崩壊後、日本文化が再評価されるようになったとはいえ、昔ながらの空間に戸惑う宿泊客も多く、建物の価値が広く理解されるには至りませんでした。平成13(2001)年、家業に入った和樹さんは「このような宿が好きな人だけに来てもらいたい」と考え、あらためて金具屋の歴史や建築を調査。国の登録有形文化財の制度に申請します。

平成15年、斉月楼と大広間が認定を受けたことに加え、インターネットの普及やアニメ映画の舞台?と話題になったことも追い風となり、昨今は建築や歴史、温泉好きな人々が好んで泊まりに訪れるようになりました。

和樹さんは、音楽やアートと金具屋を融合させる新たな取り組みも展開しています。たとえば毎年12月に開催される「音泉温泉」は、クラシカルな大広間にテクノやポップのプロミュージシャンが集う異色のイベント。演奏者も聴衆も浴衣に袴纏姿で、地元の味に舌鼓を打ちながら手拍子を送って熱狂します。300人ももの若者が全国から訪れ、周辺の宿や飲食店にもにぎわう地域活性化イベントとしても話題です。

また、貸切風呂「斎月の湯」を、タイル絵による浮世絵さながらの空間にリニューアル。いまや職人が消えつつあるタイル絵ですが、東京から絵師を迎え、新しいアートとして再生。地域の人々も参加するワークショップを経て完成しました。

湯宿の斬新な空間づくりに精魂傾けた6代目。その建物で新たな魅力を紡ぎ出す9代目。訪れる人を魅了してやまない「金具屋エンターテインメント」が、時代を越えて継承されています。

※「値段史年表」(週刊朝日編 明治・大正・昭和/戦後)によれば、大工の1日の手間賃が昭和10年に2円、平成5年に1万9,000円超。単純に9,500倍とすると9億5,000万円。



角柱を用いるのがセオリーの書院に飾り丸柱



番傘の棧をデザインした壁飾り丸柱

客室は家

各客室は1軒の家に見立て、玄関、土間、かまち、次の間、本間、縁側で構成されます。建具、床の間、内装の色・柄・形、照明、調度品など、部屋ごとに異なる細工が圧巻。社寺、数寄屋造り、書院造りなどのディテールを多用しながら、それぞれのルールにしばられない旅館建築ならではの自由な発想が随所に。



寺院建築の花頭窓の意匠を唐紙に



階段踊り場の「富士と月」

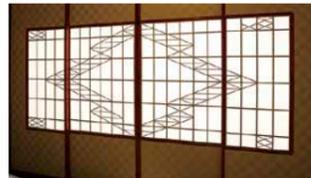
廊下は町並み

街路に見立てた廊下や階段にたたずむだけで知らない街角に迷い込んだ感覚に。花街風の灯火、紅殻色の壁、街道を思わせる部屋へのアプローチなど、凝った仕掛けが非日常へ誘います。



様式美の博物館

「てり」「むくり」を効かせた屋根の意匠、現代の職人が再現するのは困難とされる「こけら葺き」の軒庇、神社を思わせる曲線の欄干、「組子」の障子など、日本建築の様式美を随所に見ることができ、まるで建築意匠博物館。



遊



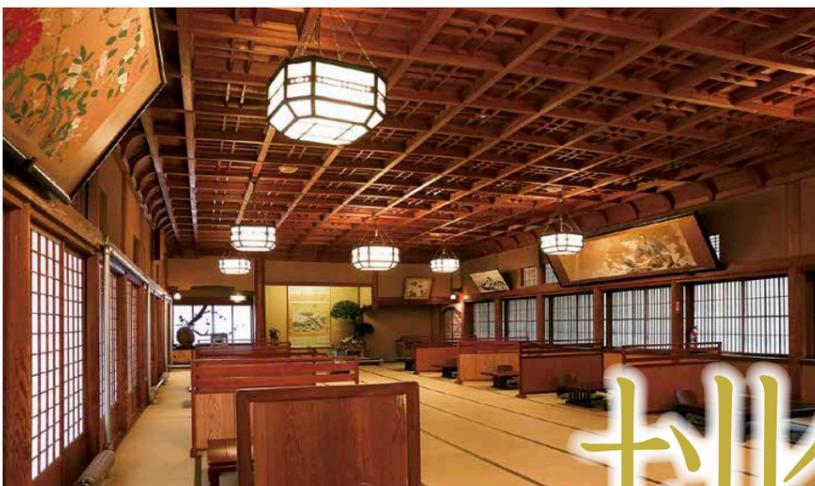
金具屋 魅力探訪

金具屋館内のいたる所にちりばめられた和の美、職人の技、洒落な遊び心を紙上で探訪。その魅力に迫ってみましょう。



木造4階建 齊月楼(国指定有形文化財)

齊月楼は伝統軸組構造。木材を木組みでつなぎ釘を用いずに建てられています。長さ8間半(約15m)の杉の通し柱13本が4層を貫いて支え、隅柱が建物の外側に見えるのが特徴。棟梁の宮大工が伝統建築の本領を發揮しつつ、西洋の技術も融合させて建築。当時の姿のまま4階まで営業利用している希少な建物です。



大広間は無柱の大空間

本館8階の大広間(国指定有形文化財)は130畳。木造にもかかわらず無柱という奇跡的な空間が実現したのは、西洋建築のトラス構造(三角形の骨組みを組み合わせて強度を保つ構造)を採用したため。格式の高い寺社建築の折り上げ格天井(ごうてんじょう)がダイナミック。

挑

昔と今が溶け合ういで湯

館内には源泉掛け流しの3つの大浴場と5つの貸し切り風呂があり、浴場も湯船もそれぞれに異なるデザイン。



戦後造られた「浪漫風呂」は明治の風情。改修にあたり9代目がステンドグラスをデザインし直した



「鎌倉風呂」は伝統的な湯殿造り。齊月楼と同時期に建築(老朽化のため改修済み)



現代のタイル絵で浮世絵の世界を再現した貸切風呂「斎月の湯」(2018年12月新装)

金具屋文化財巡り・金具屋源泉見学ツアー

国の登録有形文化財に認定された「齊月楼」「大広間」をはじめとする金具屋の建築空間の見どころをめぐる約35分の館内ツアーを毎夕実施しています。また4つの自家源泉をめぐる約45分のツアーも予約により毎朝実施。いずれも宿泊者限定のサービスです。

硫酸アルマイトからのアルミ除去装置 (MRU)

※MRU= Metal Removal Unit (金属除去装置)

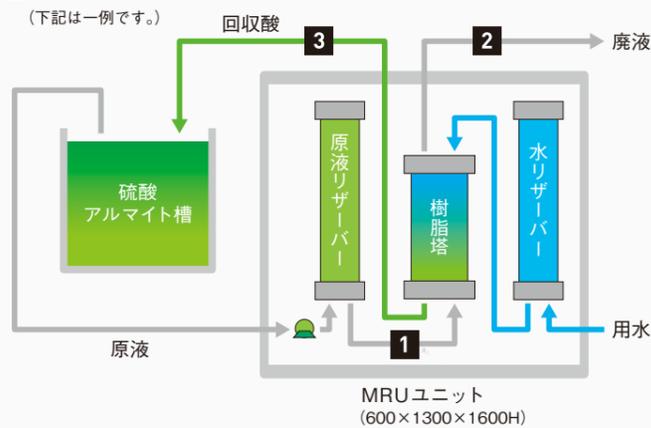
硫酸アルマイト工程で使用される硫酸は、その大部分が未反応のまま遊離硫酸として廃棄されています。MRUシステムは、硫酸に溶解したアルミ (AL) を分離・除去し遊離硫酸を回収したのち硫酸アルマイト槽へ戻すことで再利用するシステムです。

MRU導入によるメリット

- ① **硫酸購入費削減**
遊離硫酸を回収、再利用することで硫酸購入費を削減します。
- ② **排水処理費用削減**
廃液の硫酸濃度を低下させることで、中和剤の使用量や脱水ケーキの発生量を抑制し、コストを削減します。
※現在、自社の排水処理設備を使用している場合のみならず、業者委託処理をしている場合にもトータリックにコスト削減が可能です。
- ③ **アルマイト液の更新時間が不要に**
液更新作業と、それに伴う工程停止が不要となることで、一層の効率化を実現します。
- ④ **アルマイト液管理の均質化 (AL濃度の一定化)**
AL濃度を一定に管理することが可能となり製品品質の向上が図れます。

■フローシート

(下記は一例です。)



■酸回収までの流れ

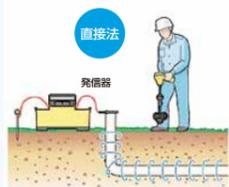
- 1 硫酸アルミを多量に含んだ原液をイオン交換樹脂塔の下部より樹脂塔へ送り込みます。
- 2 原液中の遊離硫酸はイオン交換樹脂に吸着されますが、硫酸アルミは吸着されず樹脂塔上部から樹脂塔外へ排出されます。この廃液は場内で処分します。
- 3 樹脂塔内のイオン交換樹脂に吸着した硫酸は、樹脂塔上部から水を送り込むことにより樹脂から硫酸が溶離され、遊離硫酸として回収されます。



埋設配管マッピングサービス

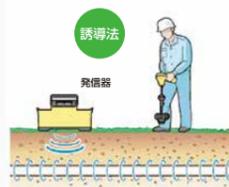
配管路図の紛失や担当者の変更等によって経路がわからないままとなっている埋設配管はありませんか。事業所敷地内に経路不明のまま埋設配管が放置されていると、配管の破損による環境被害や、掘削工事等の際の事故発生のリスクとなります。ミヤマの埋設配管マッピングサービスは、金属管から非金属管まで材質を問わず、配管の位置や深度を正確に調査、測定します。

■多様な探知法で、様々な材質の配管、電線管等を正確に測定します。



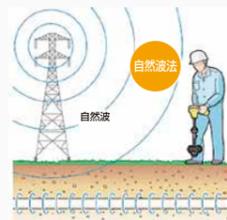
アクティブ探知(直接法)

発信機を金属配管やケーブル等直接接続し、信号を流して探知します。



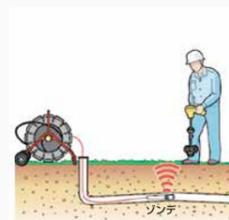
アクティブ探知(誘導法)

金属配管の上から遠隔で信号を誘導し探知します。配管に発信機を接続できない状況下で使用します。



パッシブ探知(自然波法)

電源・通信ケーブルなどから発生する磁界や、ラジオ電波等の自然波が金属配管に誘電して発生する磁界から配管を探知します。



ゾンデ探知

対象配管が非金属で信号を送れない場合、小型の発信機などを配管内に流すことで位置を探知します。

画像提供：日本エマソン株式会社 リッジ事業部

●漏えい事故の防止

地震による地盤沈下など、配管の破損に伴う漏えい事故や汚染の拡散などの環境被害を最小限に食い止める為、事前に配管経路の把握が必要です。

●行政指導への対応

埋設配管の定期点検※で異常が認められない場合であっても、配管経路が不明な場合には行政から経路の把握を指摘されることがあります。

※水質汚濁防止法において、埋設配管は空気圧試験、水位変動確認試験等と同等以上の点検を一年に一回以上行うことが定められています。

●工事時の事故防止に

建屋解体や基礎工事、道路舗装など、事業所内で土壌掘削を伴う工事を行う際に、埋設配管や電線管の位置を把握することで、破損等のリスクを未然に防止します。

●埋設配管の撤去、更新工事の迅速化

配管経路を明確にすることで、既存配管の更新工事や、新たに配管を敷設する際の撤去工事を迅速に低コストで行うことが可能です。